

# 認定書

国住指第 2233 号  
平成 25 年 11 月 21 日

因幡電機産業株式会社  
代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ（防火区画貫通部 1 時間遮炎性能）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号  
PS060FL-0722
2. 認定をした構造方法等の名称  
ケーブル・電線管／ポリオレフィン系樹脂混入無機質充てん材充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）
3. 認定をした構造方法等の内容  
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

## 1. 構造名：

ケーブル・電線管／ポリオレフィン系樹脂混入無機質充てん材充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

## 2. 申請仕様の寸法等：

申請仕様の寸法等を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法等

項 目		申 請 仕 様
開口部	形状	円形(φ160mm以下)
	面積	0.0201m <sup>2</sup> 以下
占積率 (開口面積に対する配管・ケーブルの断面積の総合計の割合)		43.2%以下
貫通する床の構造等		ALCパネル又は鉄筋コンクリート 厚さ 100mm以上

## 3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に、配管・ケーブルの構成材料を表3に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様	
充てん材	材料	ポリオレフィン系樹脂混入無機質充てん材
	形状	バテ状
	密度	
	組成 (質量%)	
	使用箇所 (使用量)	蓋金具内部に密に充てん (床上面から高さ40mm以上) ※被覆用テープを用いてケーブル・電線管の表面に厚さ5mm以上の先付けを行ってもよい。また先付け部分の長さは蓋金具高さを超えてもよい。

表3 申請仕様の配管・ケーブルの構成材料

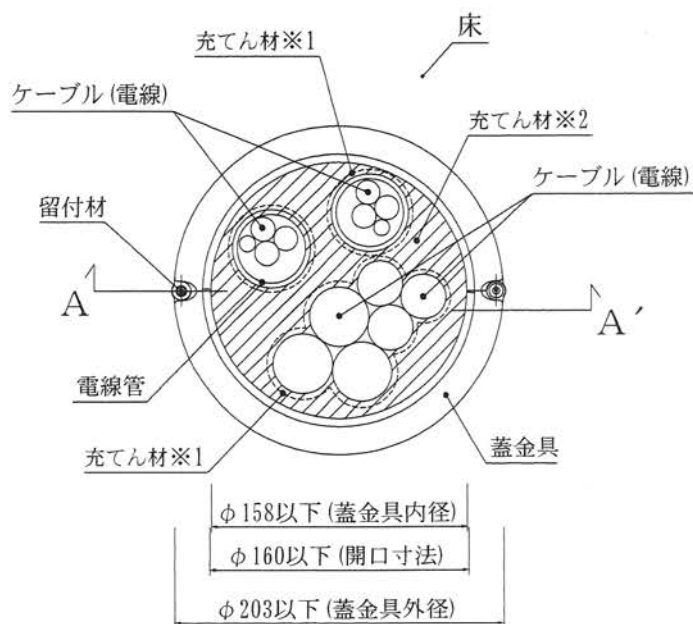
項目	申請仕様			
ケーブル (電線)	導体(又は芯線)の断面積	1本あたり	325mm <sup>2</sup> 以下	
		総合計	1967mm <sup>2</sup> 以下(銅等の金属類)	
	総有機量	7.92kg/m以下		
	導体(又は芯線)の種類	銅、ガラス繊維、その他これらに類する不燃性の材質		
	絶縁体	ポリエチレン系	厚さ	4.5mm以下
		架橋ポリエチレン系		
		塩化ビニル系		
ゴム系				
介在(円形に調整する充てん材)	紙、ジュート、ポリプロピレン、又はなし			
シース	ポリエチレン系	厚さ	2.9mm以下	
	塩化ビニル系			
	ゴム系			
電線管	材料	合成樹脂製可とう電線管(JIS C 8411、CD管又はPF管)		
	外径	48.0mm以下(楕円さや管は長径が48.0mm以下)		

4. 申請仕様の副構成材料：  
申請仕様の副構成材料を表4に示す。

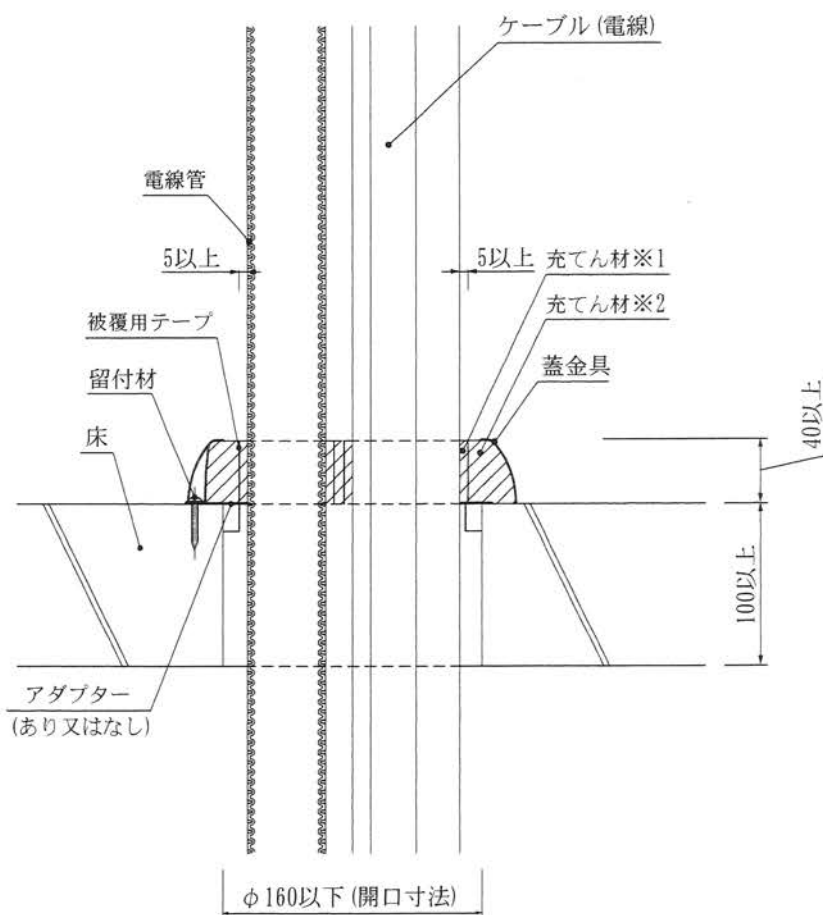
表4 申請仕様の副構成材料

項目	申請仕様	
蓋金具	材料	①～⑤の一 ①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ③クロムめっき鋼板(JIS G 7122) ④熱間圧延軟鋼板(JIS G 3131) ⑤冷間圧延鋼板(JIS G 3141)
	寸法	厚さ0.8mm以上、高さ40mm以上 (外径等は開口寸法による、図3参照)
アダプター (あり又はなし)	材料	①～⑤の一 ①溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ②溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ③クロムめっき鋼板(JIS G 7122) ④熱間圧延軟鋼板(JIS G 3131) ⑤冷間圧延鋼板(JIS G 3141)
	寸法	厚さ0.8mm以上 (外径等は開口寸法による、図3参照)
	使用箇所	必要に応じて、蓋金具内の充てん材脱落防止に用いる
留付材	材料	タッピンねじ又はコンクリートビス 材質：鋼製又はステンレス鋼製
	寸法	M4×25mm以上
	使用箇所	蓋金具と床面との留付用(2箇所)
被覆用テープ (あり又はなし)	材料	アルミニウム箔張ガラスクロステープ
	厚さ	0.25mm以上
	使用箇所	必要に応じて、ケーブル・電線管の表面に先付けした充てん材表面に巻付ける (被覆高さ40mm以上)

5. 申請仕様の構造説明図：  
申請仕様の構造説明図を図1～図3に示す。



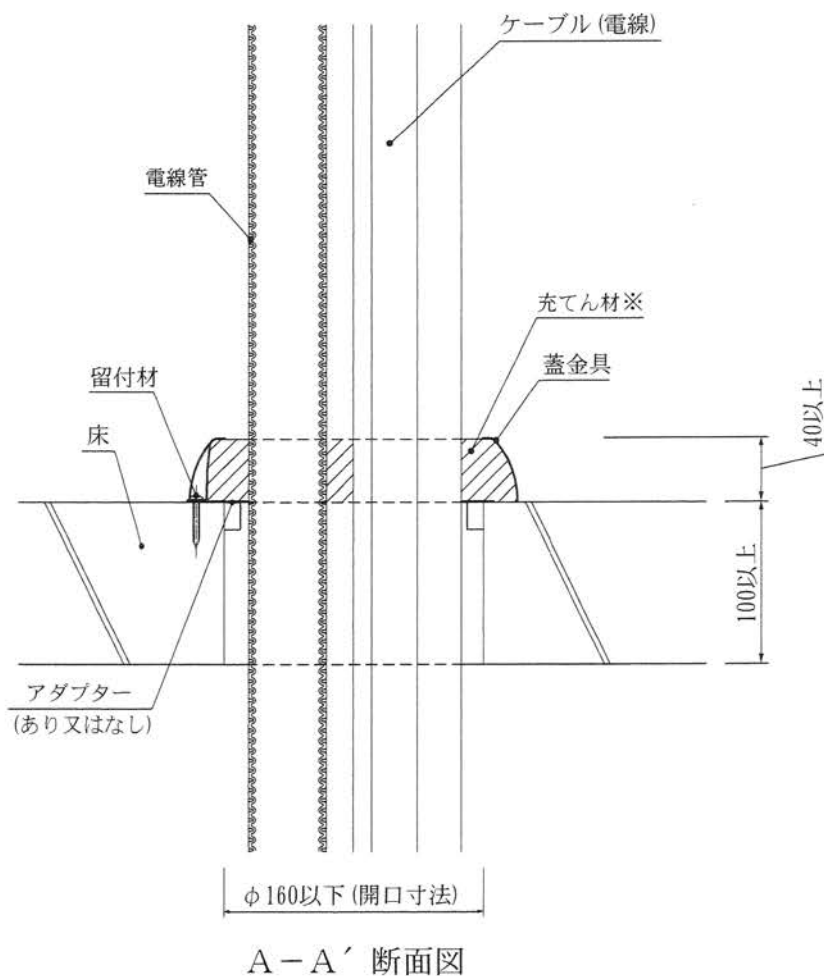
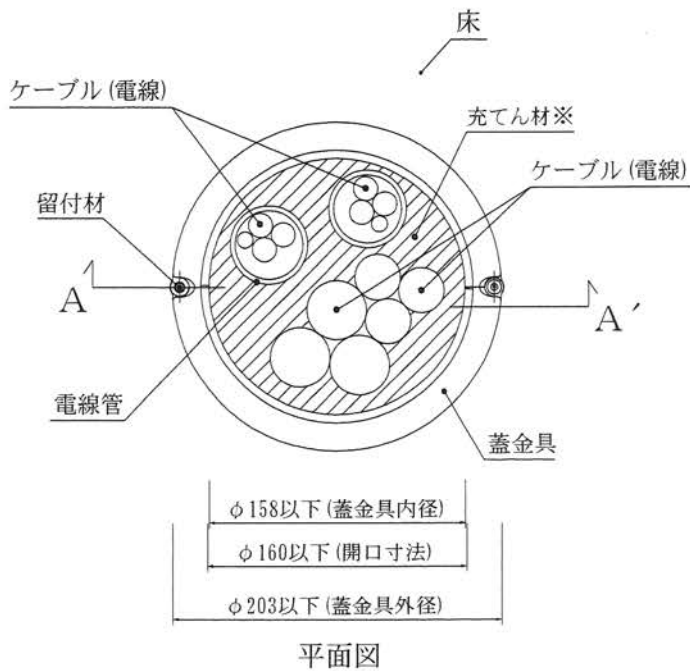
平面図



A-A' 断面図

- ※1) ケーブル・電線管の表面に床上面から高さ40mm以上、かつ厚さ5mm以上巻付け
- ※2) 蓋金具内部に密に充てん(床上面から高さ40mm以上)
- 注) ケーブル・電線管の配置の一例を示す

図1 構造説明図



※) 蓋金具内部に密に充てん (床上面から高さ40mm以上)  
 注) ケーブル・電線管の配置の一例を示す

図2 構造説明図

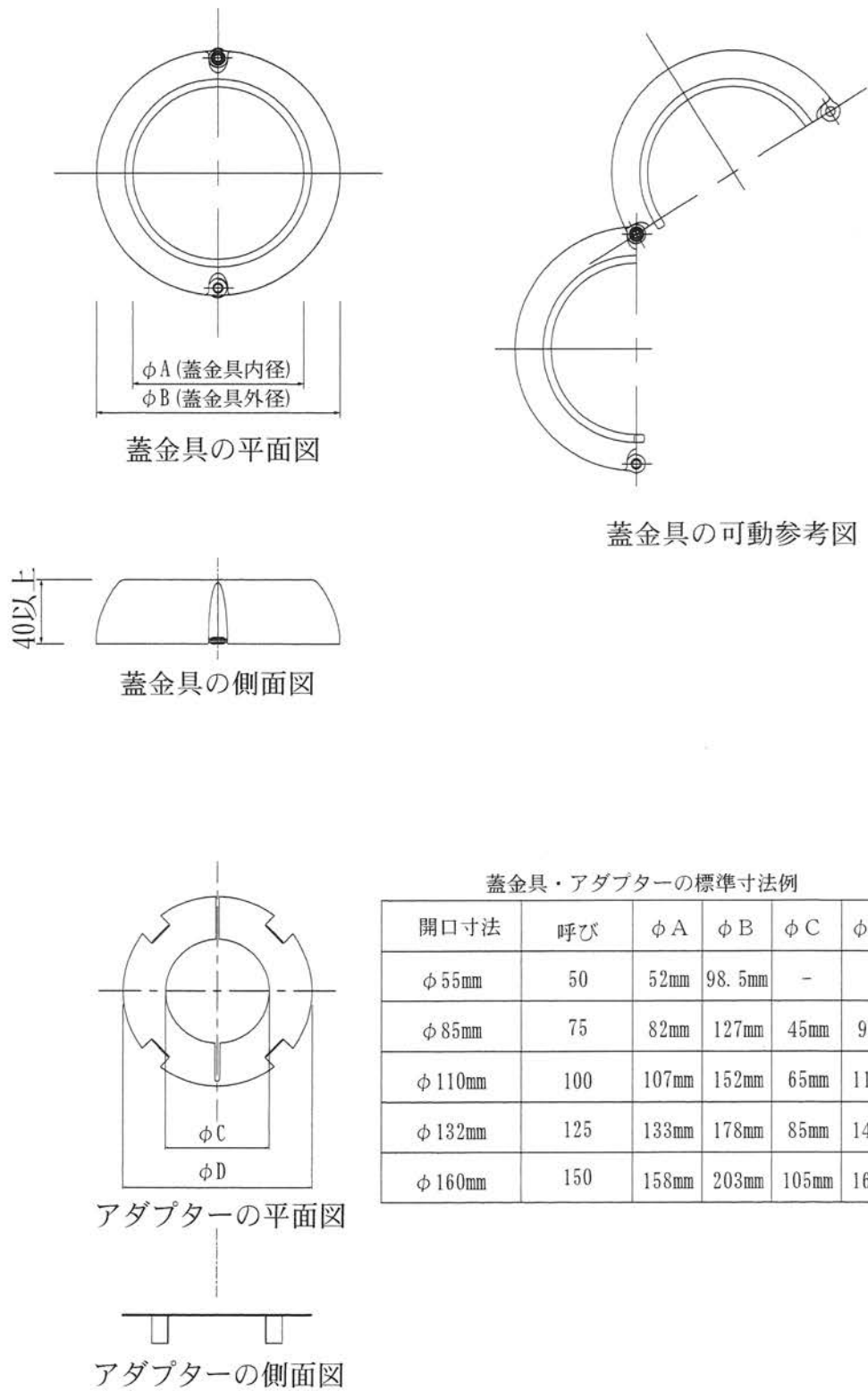


図3 構造説明図

## 6. 施工方法：

施工図を図4及び図5に示す。

施工は以下の手順で行う。

### (1) 開口部の確認

開口部の開口面積、電線管及びケーブル寸法(電線管及びケーブルの断面積及び種類等)、占積率、壁の仕様、壁の厚さ等が申請仕様に適していることを確認する。開口部の周囲を清掃する。

#### ・貫通穴の設定

コアドリル等を用いてφ160mm以下の貫通穴を設ける。

#### ・電線管及びケーブルの設置

電線管及びケーブル(電線)を設置して支持・固定する。

### (2) アダプターの取付け

必要に応じて、アダプターをこの時点で設置する。

### (3) 充てん材の仕上げ及び蓋金具の設置

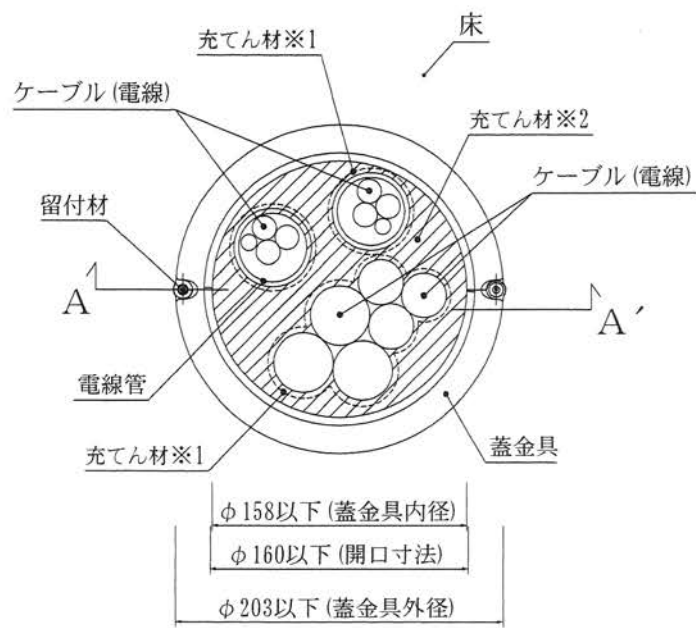
充てん材の施工方法は①又は②の二種類がある。

①事前に電線管及びケーブル(電線)の表面に床上面から高さ40mm以上、かつ厚さ5mm以上巻付け、被覆用テープを充てん材表面に巻付ける。その後、電線管及びケーブル(電線)の周りに充てん材を盛り付け、蓋金具で盛り付けた充てん材を挟み込むように包み込んで蓋金具を閉じ、所定の留付材で固定する。

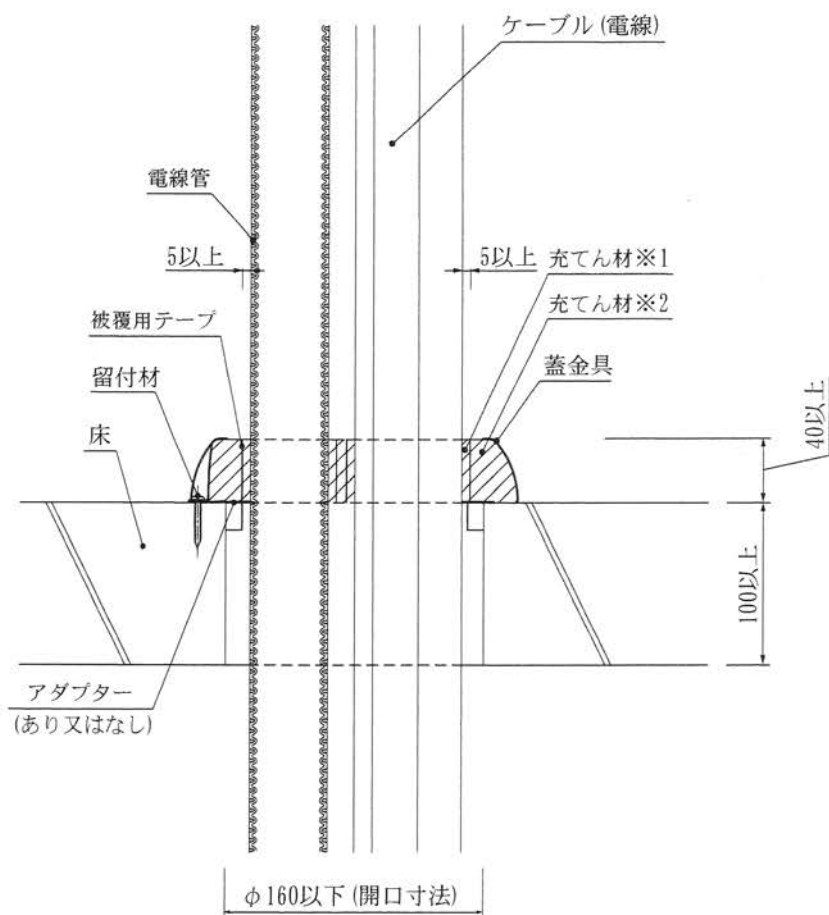
充てん材が蓋金具の内部に密に充てんされ、隙間が無く面一である事を確認すること。

②電線管及びケーブル(電線)の周りに充てん材を盛り付け、蓋金具で盛り付けた充てん材を挟み込むように包み込んで蓋金具を閉じ、所定の留付材で固定する。

充てん材が蓋金具の内部に密に充てんされ、隙間が無く面一である事を確認すること。



平面図

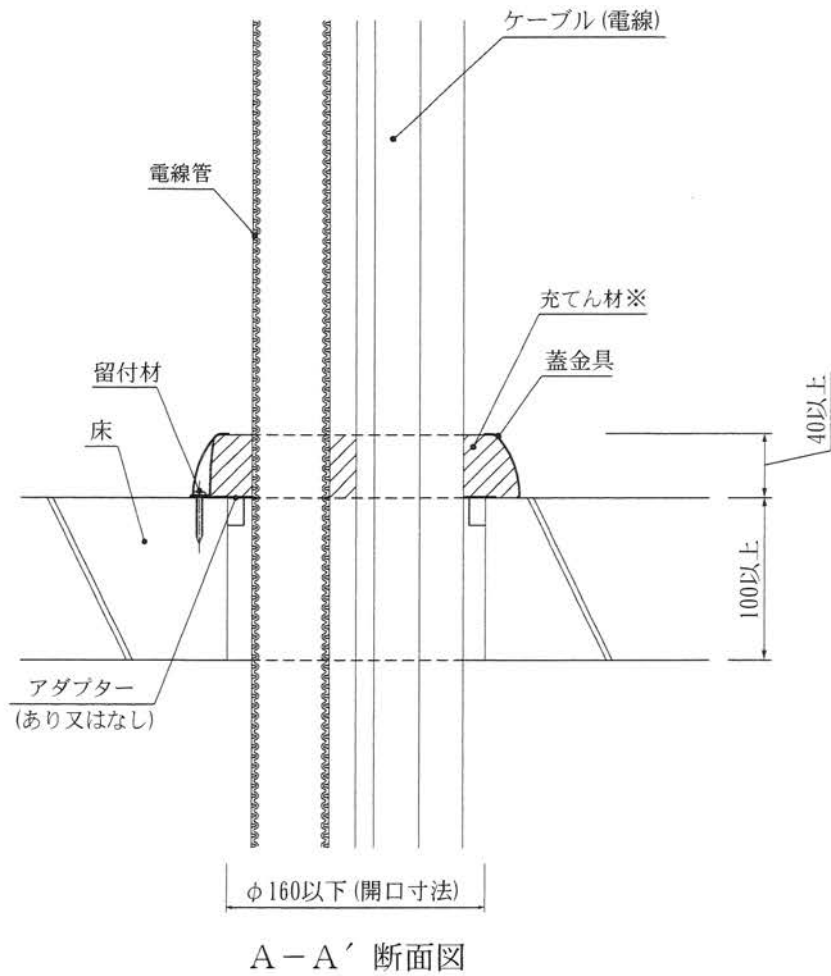
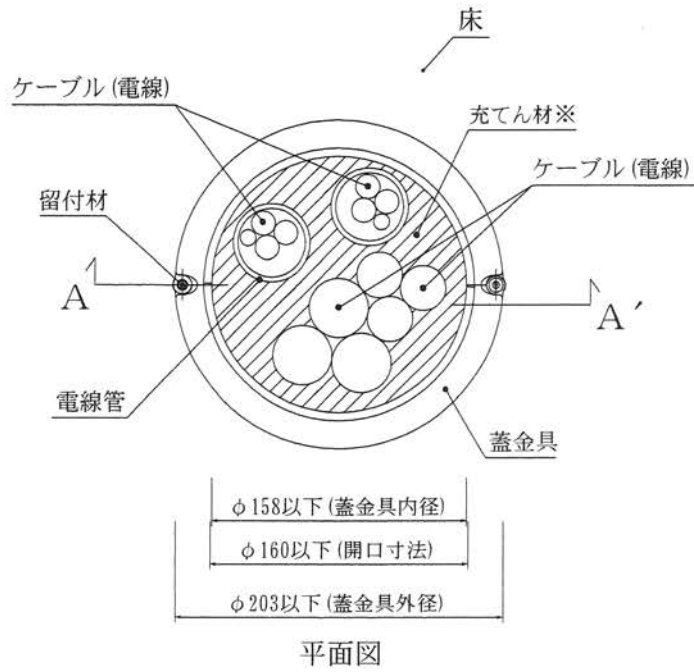


A-A' 断面図

- ※1) 蓋金具内部に密に充電材 (床上面から高さ40mm以上)
- ※2) ケーブル・電線管の表面に床上面から高さ40mm以上、かつ厚さ5mm以上巻付け
- 注) ケーブル・電線管の配置の一例を示す

図4 施工図





※) 蓋金具内部に密に充てん (床上面から高さ40mm以上)  
 注) ケーブル・電線管の配置の一例を示す

図5 施工図